



神戸大学附属図書館報

神戸大学附属図書館

(Issue Date)

1996-01-01

(Resource Type)

other

(Version)

Version of Record

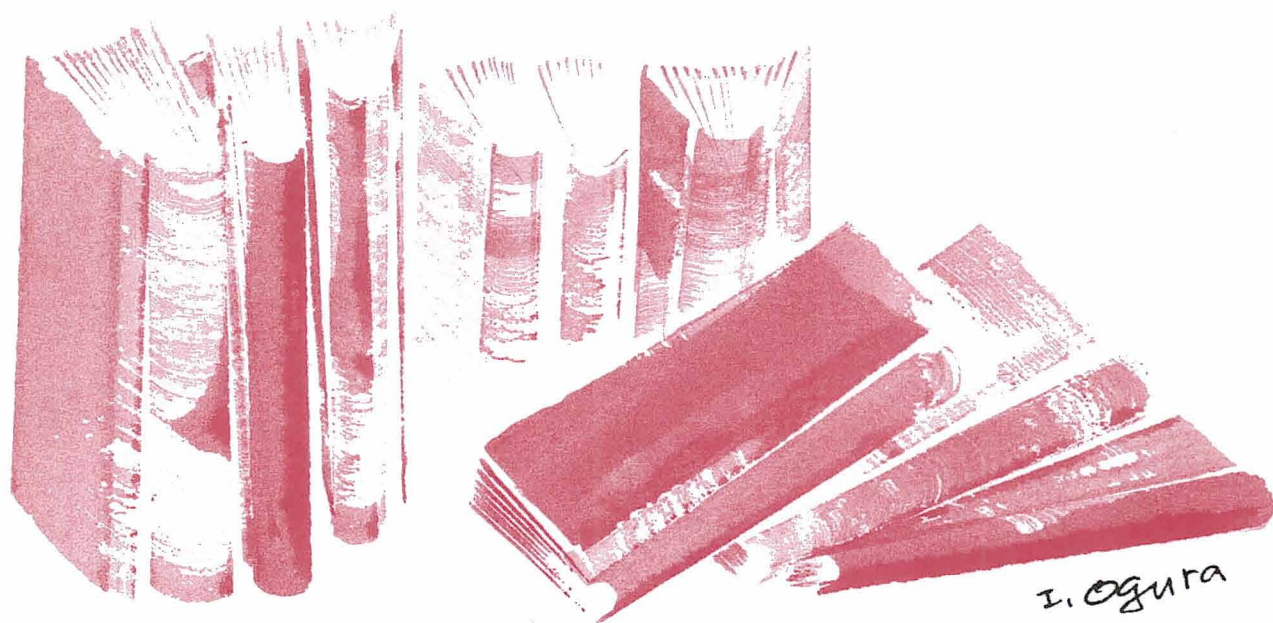
(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100475561>



神戸大学附属図書館報

The Kobe University Library Bulletin Vol. 5 No. 4



冬季号

January 1996

目 次

- ◆ 神戸医学校と神戸大学医学部(医学部分館長 岡田安弘) 2
- ◆ 被災地での調査活動(工学部 室崎益輝) 3
- ◆ 震災文庫の設置・公開について(附属図書館事務部長 熊谷俊夫) 4
- ◆ KHAN と図書館サービス— PART4 — 6
- ◆ BOOKS 自著を語る(国際協力研究科 香川孝三/発達科学部 布川清司) 8
- ◆ *Information!* 9
- ◆ 平成6年度の図書館統計から 10
- ◆ *Attention!* 1996全学図書館春季利用案内 12

神戸医学校と神戸大学医学部

岡田 安弘

昨年(平成6, 1994)は神戸大学医学部が創立50周年を迎えた。それを記念して「神戸大学医学部50年史」が編纂された。私はその編纂の委員長として医学部の歴史をひもとき、医学部の現在のあり方と将来について考える機会を与えられたことは幸いであった。

医学部の淵源は明治2年(1869)に開設された神戸病院に始まる。その時すでに医学伝習所(医師養成所)が設置されていた。その学校と病院には時代は様々だがヴェッダー、ハルリス、ベリー、ヒル、ヘイデンといったアメリカ人、イギリス人、オランダ人の他、神田、神中、杉田、佐野、江馬といったドイツ医学を学んだ人達が医学教育や医療に携わっていた。そして明治15年(1882)には甲種医学校として神戸医学校が設立された。その中には神戸薬学校も併設されていた。しかし明治21年(1888)、県の経済的理由でこの医学校は廃止され、病院だけが残り県立神戸病院として県民・市民のための中心的医療機関として親しまれることになる。

もしこの初期の神戸医学校が廃止されずに存続していたら、この神戸医学校は長崎の医学校や緒方洪庵の開いた大阪の適塾と同様に自然な形で神戸の大学を中心として発展していたであろう。そしてこの学校は病院という単なる医療機関としてではなく、他の土地に見られないユニークで国際的な医学校に発展し、おそらくそれを柱にして明治初期に神戸に存在した和漢学を中心とした明親館や、洋学を教育する神戸洋学伝習所とともに学問的な意味で国際都市としての神戸のアカデミーを、そして統合的な神戸の大学を形成する中心的な役割を果たしていたと思われる。

神戸医学校は神戸病院という形で残ることになったが、神戸医学校にはじまる学問としての「医学」の考え方は神戸病院の中に受け継がれている。たとえば医師養成所でベリー

の行なった解剖は日本ではじめての病理解剖であったと言われているし、さらに「50年史」編纂の過程で明治18年に神戸医学校を卒業した池田宇之助という学生の講義筆記ノート(8冊)がそのままの形で東京で見つかり、その内容からもその当時既に高いレベルの医学教育がなされていたことも明らかになった。また神戸病院は「兵庫医学」という医学誌を発刊し医学研究・教育の中心となっている。昭和19年に神戸病院を母体として兵庫県立医学専門学校が再建され、21年には兵庫県立医科大学、27年の神戸医科大学を経て昭和39年に神戸大学医学部へと発展してきた。従って神戸大学医学部の歴史は50年というよりも、今年で126年と言う方が正しいと思われる。

この歴史の中で最も重要なことは、神戸大学医学部が医療のための診療所のみではないということである。確かにこの126年にわたる歴史の中で梅毒、ペスト、コレラその他の伝染病対策や市民、県民の健康に神戸病院、大学附属病院の果たしてきた役割はきわめて大きい。しかしそれ以上に神戸病院の初期において既に医学校が存在し、学問としての「医学」が教えられていたことを忘れてはならない。

このような歴史的な過程を把握し、私達としてはこの医学部を単なる医療機関としてではなく、学問としての「医学」と「医療」を両立して行けるアカデミーの中心として発展させて行く努力をすべきであると50年史の編纂をしながら痛感した。

(おかだ やすひろ 医学部分館長)

神戸医学校生池田宇之助の講義筆記ノート(明治18年)

被災地での調査活動

室 崎 益 輝

地震の当日は国際会議の最中ということで身動きがとれず、テレビを前にして悶々とした時間を過ごすこととなった。テレビの映像を前にして、何もできない自分に腹立たしさを感じた次第である。そのうち、防災研究者としてどう責任をとるのかという思いが、脳裏を支配するようになった。その時、ふと関東大震災時の震災予防調査会の仕事が思い出された。物理学者の寺田寅彦などが学生とともに火災の実態を調査し記録に残した歴史的作業のことである。そこで、被災の実態をあがままに調査しよう、と思い立ったのである。被災地の研究者としてまた防災を専門とする研究者として、被災の事実を全国にまた後世に伝えることが、その責任の果たし方だと自らに言い聞かせたのである。

翌日から、被災調査活動がはじまった。大学での学生の安否確認活動のかたわら、学生たちに調査協力を呼び掛けた。多くの学生が被災者であるにもかかわらず、積極的に調査活動に参加してくれることになった。全国からも数多くの学生が応援に駆けつけてくれた。火災原因調査には約150人、避難生活調査には約50人、建物被災調査には約1000人の学生たちが協力してくれることになった。被災調査もボランティア活動として予想以上に大きな広がりをもつこととなった。

ところで関東大震災では、調査に参加した学生のなかから数多くの地震学者や防災学者が育っている。今回の被災調査に参加した学生たちの中からも、次代の防災を担う研究者が生まれることを期待したい。

さて調査が進むにつれて、なんのための調査であり記録づくりであるか、ということが問われることとなった。当初から、自己満足のためでもなく手柄争いのためのものでもないことははっきりしており、調査結果をオープンにして全ての人々に活用してもらうことを念頭に置いていた。また次の災害に備えた防災対策や防災研究のためという位置づけもしていた。しかし、火災現場に行き避難所を訪れて調査を進めていると、今を苦しんでいる被災者の救済に役立たずして、なんの調査かという思いが強くなった。被災地の研究者であれば、なおさら今を重視しなければということである。調査結果をできるだけ早くまとめ社会にアピールすること、また被災者に調査結果を返すことが求められるということである。それから、私たちの調査は被災者の目を強く意識することとなった。

被災1年を迎えようとしている今、あらためて調査活動の真価が問われているといっても過言ではない。

(むろさき よしてる 工学部教授)



【1995. 1. 17
—阪神大震災—
for Windows】
より

震災文庫の設置・公開について

—阪神・淡路大震災に関する資料を次世代に伝える—

熊谷俊夫

兵庫県南部地域を襲った大震災から約9か月余を経た平成7年10月30日、人文・社会科学系図書館二階にある雑誌センターの一角に「震災文庫」がオープンした。あの日、ここ震災文庫が置かれた雑誌センター内の62台のスチール製雑誌架はすべてドミノ倒しのように並んで倒れ、カレント雑誌が床に散乱した。

情報化が極めて発達した現代に発生した都市直下型大地震は、発生直後からおびただしい量のさまざまな情報が生産され流通した。テレビによる映像が世界をかけめぐった。被災現場では、周囲の状況が不明の中で、テレビに映し出される生々しい映像を見て自らの様子がわかるという皮肉な情景もあった。

新聞、雑誌、週刊誌、広報誌、図書、調査報告書が次々に出版され大震災を詳細に伝えた。これらの出版物のほかに被災地では、被災者への伝言メモ、町内自治会のチラシ、ビラ、ポスター、掲示、など多様な生活情報が流通したが、そのほとんどは所期の役割を果たし消滅し散逸していった。しかし、これらの資料も含めてすべての資料は、今次の大震災を検証し、次なる大地震に備えるためにも貴重な研究資料、歴史的資料となる。

収集・保存・提供の計画

本学図書館では、被災地区の中心部に所在する大学図書館が担うべき責務として、今次の大震災に関する一切の資料を可能な限り網羅的に収集し、保存し、被災地の復興、今後の防災対策の策定、地震研究に資するために広く内外に公開することとした。計画は館長裁定によって決定され、附属図書館運営委員会に報告された。

6月、資料恵贈の館長からのお願いの文書を学内はもとより多くの関係機関に発送し、この趣旨に対する理解と協力を要請した。イ

ンターネットを通じて広く同様のお願いも発信した。日々の新聞に掲載される震災関連記事の中から出版に関する記事を拾い出し、個人をはじめ資料の作成元に対し寄贈のお願いをし、あるいは購入を行った。さらに、自治体をはじめ資料作成機関に館員が何度も足を運んで資料収集につとめた。多くの方々のご協力により資料は増え続け、その整理に迫られた。公開する方策について検討された。

収集資料

昭和53年6月に発生した宮城県沖地震において書架倒壊などの被害があった東北大学図書館では当時地震関係の文献・資料を収集した。宮城県沖地震関係文献一覧には459件の資料が所収されている。しかし、今次の大震災ではその何十倍かの印刷された文献資料のほかに、カセットテープ、ビデオテープ、スライド、写真、CD-ROM、地図、ポスター、チラシなどの一枚ものと多種多様な情報媒体が収集されており、日を追って増えている。これら収集資料の中で通常の出版流通にのらない非売品などのインフォーマルな資料が多くを占めている。

ネットワークによる収集のための連携

7月、本学図書館をはじめ、資料収集や保存を行う公共図書館、歴史史料館、被災地域の各自治体、ボランティア団体、NGO組織等の関連機関による会合がもたれた。震災関係資料の収集、保存、提供について情報交換が行われ今後の協力が約された。

もとより個々の図書館での完全な収集は困難であり、関連機関との資料収集のためのネットワーク化と共有のデータベース構築とが必要である。設置者の枠をこえて各図書館が収集した震災関係資料を統合して、初めて

より十分な資料の構築が形成される。

分類区分

収集された資料の内容は多岐にわたり、以下の独自の分類区分が作成された。

- | | |
|-----------|--------------|
| 1 地震災害一般 | 9 地震と地震動 |
| 2 法 律 | 10 医 療 |
| 3 経 済 | 11 土 木・建 築 |
| 4 行 政 | 12 産 業・物 流 |
| 5 消 防・防 災 | 13 交 通・港 湾 |
| 6 市 民 生 活 | 14 情 報・通 信 |
| 7 社 会 福 祉 | 15 芸 術・文 化 財 |
| 8 教 育 | 16 文 芸 |

インターネットの活用

世界的な情報通信ネットワーク、インターネットが近年、極めて目ざましく進展し拡大してきた。大震災においてもこれを介して映像を含む被災状況がいち早く世界に発信されたのは周知の通りである。

本学図書館でも前述のように、このインターネット上で震災資料提供の呼びかけを行い、また、7月早々からは震災文庫の目録を、閲覧に先駆けてWWWサーバで発信してきた。今後、世界から広く利用されるために、英文ガイドの作成と原資料の電子化が必要とされよう。

資料の公開

公開の時点で蓄積された資料は約3千点を越え、このうち整理の終わった約半数の資料をもって利用を開始した。

資料の中には前述のように映像資料、音響資料、電子資料を含んでおり、それらの利用のため次の機器類を配置した。

- ・ パーソナルコンピュータ 2セット；目録検索及びCD-ROM利用
- ・ オーディオビデオブース；ビデオテープ、カセットテープ、スライド、レーザーディスクの利用

なお、震災文庫のさらなる充実のために引き続き資料の送付及び震災資料に関する情報

の提供についてご協力をお願いしたい。

(くまがい としお 附属図書館事務部長)

震災文庫の利用案内

場 所：人文・社会科学系図書館二階

開館時間：午前9時から午後5時まで

休 館 日：土曜日、日曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日、創立記念日(5月15日)、12月28日から1月4日まで、館内整理日

検 索：備付けの分類順リスト及びコンピュータ検索ができます
インターネットから検索も可能

閲 覧：研究資料であり共同利用に供するため館内閲覧に限ります

複 写：有料で文献複写申込みを受けます

電 話：(078)881-1212 内線3929

インターネットアドレス：

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/eqb>



KHANと図書館サービス

PART4

学内 LAN である KHAN は、インターネットに接続されていますから、簡単に世界中のサーバにアクセスすることができます。図書館でも、今年度中には機器を調達し、来館の皆さんに自由にお使いいただけるようにする予定です。ネットワークを通じた図書館のサービスを扱ってきたこのコーナーですが、今回はやや趣向を変えて、世界のサーバで提供されている各種の学術情報資源へのアクセスについて簡単にご紹介したいと思います。

1. 図書館目録の検索(telnet)

telnet は、遠隔地のコンピュータに接続して、手元のパソコン等をその端末とする機能です(「リモートログイン」といいます)。

インターネットの初期段階から、telnet 機能を利用してデータベースを公開するサービスが行われており、その中には世界中の多くの図書館の目録情報があります。

相手先のアドレスを指定して接続し、あとは相手先のマシンの指示に従って各種のコマンドを入力して検索します。

telnet 接続の問題点は、接続先マシンのアドレス(IP アドレスかドメイン名)をあらかじめ調べておく必要があること、それに接続してからのコマンド等が相手先によってまちまちになることです。アドレスについては、総合情報処理センターの広報誌「MAGE」(v.17. no.2, 1995.3 p.143-) に主要な図書館のものを掲載しておりますのでご利用ください。

2. 雑誌記事情報の検索(CARL UnCover)

CARL という情報提供機関が、雑誌記事情報データベース「UnCover」をサービス

しています。約17,000誌の雑誌の目次情報が雑誌の到着とほぼ同時に入力されており、その速報性と全分野にわたる網羅性に特徴があります。CARL システムに telnet 接続(telnet ://database.carl.org) すれば、UnCover は無料で検索できます。

また、これは無料とはいきませんが、探した記事のコピーを FAX で送ってくれたり、登録した雑誌の新着号が出るごとに目次を電子メールで送ってくれたりといったサービスもあります。(私費ならクレジットカードで決済できます)

3. 情報のナビゲーション(WWW,Gopher)

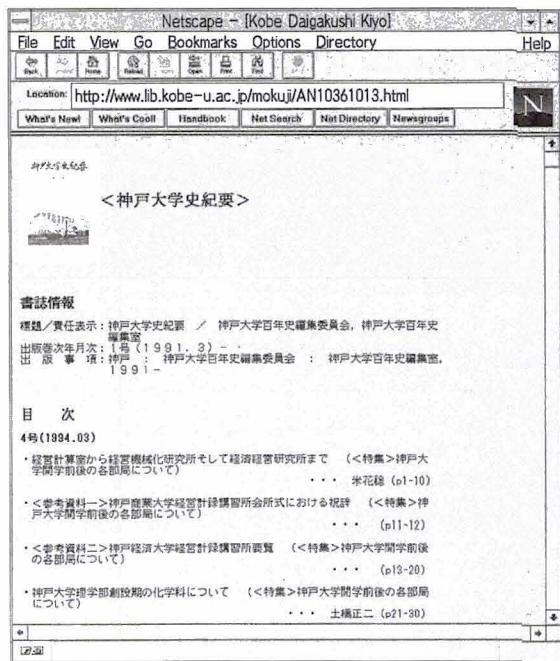
この一年ほどの間に WWW (World Wide Web) というシステムが爆発的に広まり、マスメディアにもしばしば登場します。WWW はハイパーテキストという手法で、世界中のコンピュータに散在している情報を相互にリンク付けしており、一つのサーバから全世界の情報資源へと縦横無尽にアクセスすることができます。また、Gopher は WWW 以前から使われているシステムで、情報を階層式のメニューで提供するものです。

これらは情報の所在場所(アドレス)をシステムの組み込んでいるので、利用者にとっては世界全体を単一の書庫のように扱える、「Virtual Library」ともいえるものです。

Netscape、Mosaic といったアプリケーションソフトにより、簡単にいわゆる「ネットサーフィン」を楽しむことができます。

4. WWW,Gopher 空間の探索

しかしながら、WWW 等の世界はあまり



にも広がり、ナビゲーションは楽しいのですが、特定の目的で特定の情報を探そうとすると案外大変です。そのため WWW や Gopher 上にある情報の探索手段を提供するサーバが登場しています。

Gopher サーバの情報については、「Veronica」(gopher://veronica.scs.unr.edu など)という標準の検索システムがあり、世界中のサーバの情報を網羅的に検索することができます。

WWW については、サーバの情報を収集して主題別一覧を提供しているところがいくつかあります。特に「Yahoo」(<http://www.yahoo.com>)や「Virtual Library」(<http://www.w3.org/hypertext/DataSources/bySubject/Overview.html>)が網羅的で著名です。また、各専門主題については、研究機関や個人がテーマを絞った一覧リストを提供している場合が多く、メンテナンスのよいところを見つけて定期的にフォローしておく便利です。

また、WWW サーバの情報をキーワード検索できるサービスもあります。たとえば「Lycos」(<http://www.lycos.com>)などが有名です。

5. 神戸大学附属図書館の WWW サーバ

附属図書館でも、インターネットを通じて情報発信を、ということで、今年度から WWW サーバを立ちあげて公開しています。

URL: <http://www.lib.kobe-u.ac.jp>
利用案内などを中心に出発しましたが、図書館で管理している各種資料などの情報もどんどん提供していきたいと考えています。手始めに、「震災文庫」の資料情報や、神戸大学で発行されている紀要類の目次情報などを、WWW 上で検索・一覧できるようにしています。

また、インターネット上の学術情報資源に関する情報を皆様に提供するページも構築したいと考えております。

利用者の皆様からも、ご意見・ご要望などいただければ幸いです。

Further Reading

紙数の関係で、いくつかのシステムをごく簡単にご紹介するにとどまりました。

こういった内容をもう少し詳しく述べたドキュメント「インターネットによる学術情報検索入門」を図書館の WWW サーバで提供しています。(<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/doc/internet.html>)

(文責 渡邊隆弘 データ管理掛)

CD-ROM 検索サービスについて

このたび、CD-ROM サーバシステムの機器増強を行いました。

これまで MEDLINE を Macintosh で利用できるのは楠地区に限られていましたが、六甲台地区、名谷地区でも可能になります。1 月中にはテスト運用を開始しますので詳細は下記へお問い合わせ下さい。

また要望の多かった EconLit も同時にテストを始めます。来年度は Business Periodicals Index と雑誌記事索引のサービスも予定しています。

ご期待ください。

情報システム掛 Tel 内線3955

E-mail: kobelib@lib.kobe-u.ac.jp

『マレーシア労使関係法論』

香川 孝三著(信山社 1995.3)

イギリスの植民地時代から独立して、今日の経済発展にいたる過程で、マレーシアの労使関係法がどのように変貌をとげてきているかをまとめたのが本書です。要約すれば、任意主義(労使自治)を前提とするイギリスの労働法が、植民地に導入される時には、植民地統治のために労働組合の強制登録制度をてこに政府による介入を認める法制に切り替わっていき、独立後は、それを引き継ぎ、経済発展政策実現に合致する労使関係を政府主導で実現するための法的枠組みを作り上げていった経過を分析したものです。

約30年前大学院でアジアを対象にして勉強

を始めた時には、大学にはそのポストがないかも知れないと言われながら研究を続けてきました。そのころにはアジア法の授業はほとんどの大学で開講されていなかったからです。アジアとの経済的関係が深まりはじめてから、日本の大学でアジア法が少しずつ開講されはじめました。国際協力研究科でアジア法が設置されたのも、その流れの中にあります。しかし、法学研究の中ではアジア法がマイノリティである現実が変わりはありません。本書によってアジア法の面白さを知って、ひとりでもアジア法への関心をいだけてくれることを望んでいます。

(かがわ こうぞう 国際協力研究科教授)

人社系図 3-9-1262



— 自著を語る —



『江戸時代の民衆思想』

—近世百姓が求めた平等・自由・生存—

布川 清司著(三一書房 1995.1)

皆さんは「民衆倫理思想史」ということばを聞かれたことがあるだろうか。民衆倫理思想史とは、民衆があるべきと考えた人間のあり方に関する思想史で、私の専門研究分野である。私はこの研究の必要性をもう三十年以上も主張し続けてきたが、一般的には一向に共鳴をえられないでいる。同じことをやってみようという研究者も現れない。私からすると、こんなに面白いことをどうしてやらないのか不思議でならないのだが。自分が若いころは、他に研究者がないのを幸いと考えてきたが、定年が近くなった現在、それが心細く残念に思われてならない。私の研究が人目につかないひとつの原因は、私がこれまで内容

の難しい専門書ばかりを書いてきたことにあるので、研究の一部を新書版で分かりやすく書いて多くの人の関心を得たいと考えて出版したのが、今回の本である。『江戸時代の民衆思想』という書名は、意外に初見かもしれないとあとから考えるのだが、その内容にいたっては、従来の江戸時代の民衆思想に対する定説、つまり、儉約・忍耐・服従・諦観を良しとする倫理思想への見直しや、平等権・自由権・生存権といった近代西洋思想の実態がすでに江戸時代の民衆思想にあったとする点で学問的刺激に満ちており、また「自らの良しとしないことにはあくまでも従うべきでない」という不服従の倫理の年来の提唱は、今後の望ましい歴史形成のために裨益するところの多い卓見といえるのでなかろうか。

(ふかわ きよし 発達科学部教授)

人間系図 150. 21-5

Information!

人文系図書室休館のお知らせ

12月中旬より文学部・文化科学研究科の各棟では冷暖房のための空調工事が始まりましたが、人文科学系図書室については2月から3月末までの間が工事期間となる予定です。そのため次の期間が休館となります。ご不便をおかけしますが、よろしくお願いします。

休館期間：平成8年2月1日～4月10日
(1月末まで特別長期貸出の取扱いをしています)

工事期間中の人間系図書室の利用について

人間科学系図書室の模様替えの概要については前号でお知らせしましたが、閲覧室、および書庫の一部も模様替え工事に含まれています。このため、平成8年2月から3月にかけての工事期間中、利用の一部制限、あるいは休館が予想されます。

詳しくは掲示等でお知らせしますので、ご協力をお願いします。

神戸大学発行の紀要目次情報提供開始

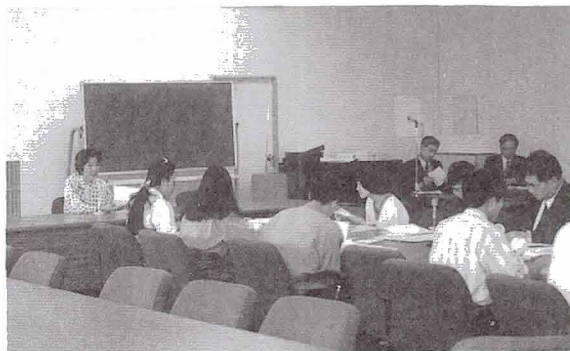
11月17日から、WWWサーバ上で神戸大学各機関で出版されている研究紀要などの目次情報提供のサービスを開始しました。目次の一覧とキーワード・著者名による検索ができます。ご利用ください。URL <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/mokuji/index.html>

第2回 CD-ROM 検索システム説明会

10月23日(月)～27日(金)の毎日午後1時から、六甲台キャンパスの5館室において、本年度2回目のCD-ROM検索システム説明会を実施しました。前半3日間は、学内ネットワークを利用したデータベースについて、また後半の2日間では、各館室に配置されたデータベースについての検索方法をそれぞれ説明しましたが、この検索サービスへの関心の深さからか、参加者は5日間でのべ43人を数えました。

留学生オリエンテーション：図書館利用

10月25日(水)に、留学生センターの主催で留学生オリエンテーションが実施され、10月入学の留学生に対する留学生センターの説明が行われました。ここで、保健管理センターなどの各関連部局とともに、附属図書館からも、留学生の利用の多い国際・教養系図書室を中心に説明を行いました。



図書館の利用案内と英文のパンフレットを一人一人に配布し、500冊余りの日本語・日本事情に関する図書や、英文の小説、広範囲の各国語辞書などを紹介し、図書館の利用を呼びかけました。

国際化が広まるにつれて、図書館も国際的になっていくこととなります。今後は、留学生に対することのみならず、図書館のいろいろな面で地球規模のサービスへの変化を遂げることとなるのでしょうか。

神戸大学附属図書館講演会

11月20日(月) 神戸大学瀧川記念学術交流会館において近畿地区国公立大学図書館協議会と兵庫県大学図書館協議会との共催により講演会を開催しました。

今もっとも注目されているテーマで、82名の参加があり大変盛況でした。

テーマと講師は下記のとおりです。

「電子図書館のモデル キャンパスネットワークでの大学図書館の将来像」

光華女子大学 谷口敏夫助教授

「インターネットによる情報発信の実例
WWWサーバを中心に」

神戸大学附属図書館 渡邊隆弘

目録システム地域講習会

10月16日(月)～20日(金)、学術情報センターと当館共催の目録システム地域講習会が開催されました。

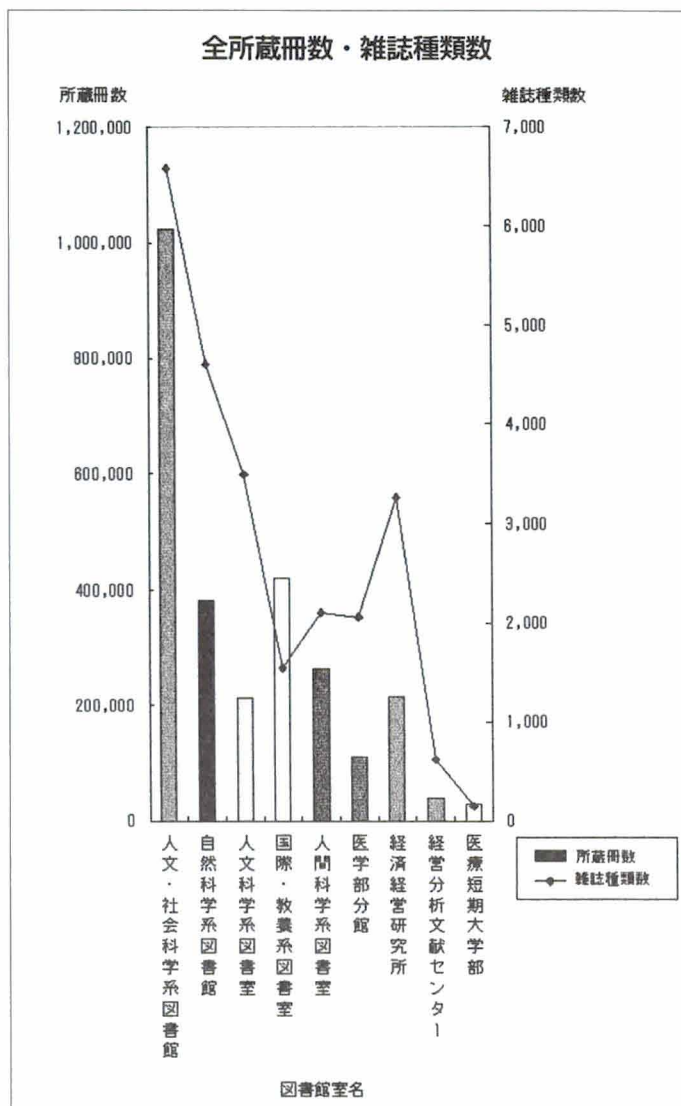
期間中2回にわたって、地域の国公立大学図書館から合計25名の目録業務担当職員が参加し、システムの運用に関して当館職員6名の講師が講義と実習を行いました。



平成6年度の図書館統計から

○神戸大学附属図書館では、平成6年度の1年間で、52,499冊の図書を受け入れました。これを仮に1棚に30冊並べるとすると1,750段となって、両面の8段の棚が5連つながった書架になおせば22本分のスペースを要する計算になります。

(経済経営研究所・経営分析文献センター・医療技術短期大学部の3図書館室を加えた全学の受入冊数は約56,000冊です。)



○平成7年4月1日現在の附属図書館全所蔵冊数は約240万冊を超えました。館別にどのくらいの比率で所蔵しているかをグラフに表してみたのが次ページの図です。

(全学の所蔵冊数は約270万冊です。)

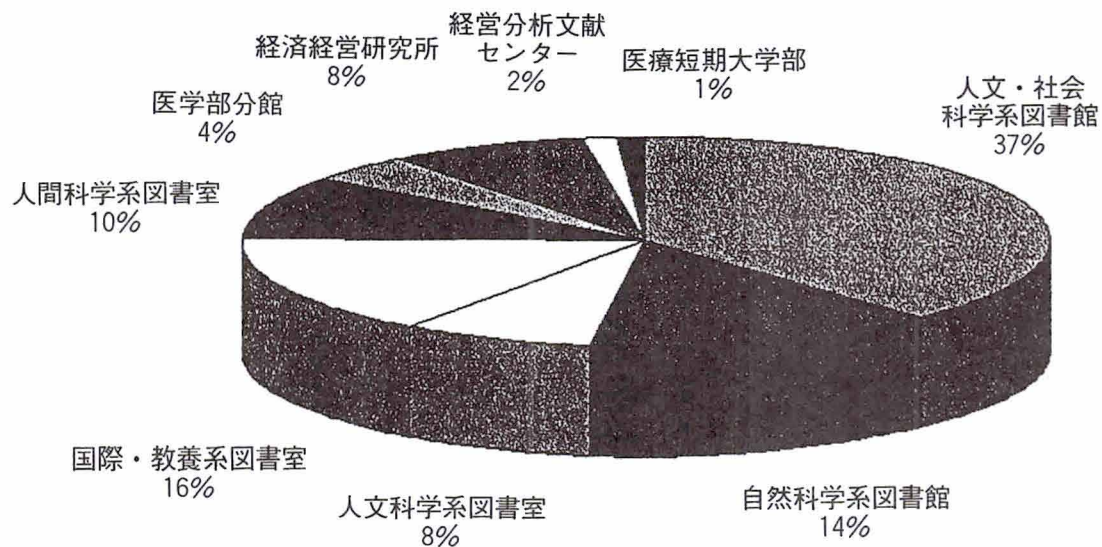
○同様に雑誌が平成6年度に何種類受け入れられたかという、重複誌を含めて13,721種類(全学では、15,497種類)です。過去からの集積としては約20,000種類(全学では約24,000種類)の所蔵雑誌種類数となっています。

○昨年度中に附属図書館に入館された方の人数は、延べ75万人を超えています。6館室で1日平均延べ約3,000人が図書館を利用されました。

○また、約18万冊の貸出があり、学習・研究に利用していただきました。

○ILL (Inter Library Loan) による文献複写は、約13,000件の受付がありました。

全所蔵冊数



1. 所蔵・受入数 (平成6年度)

*平成7年4月1日現在

項目 \ 館別	合計	人文・社会科学系図書館	自然科学系図書館	人文科学系図書室	国際・教養系図書室	人間科学系図書室	医学部分館
全所蔵冊数*(冊)	2,412,898	1,024,124	381,381	212,557	420,475	262,924	111,437
所蔵雑誌種類数*(種)	20,378	6,581	4,610	3,494	1,538	2,102	2,053
図書総受入冊数(冊)	52,499	20,579	10,685	5,371	6,948	5,388	3,528
雑誌総受入種類数(種)	13,721	4,740	3,447	1,683	1,222	1,501	1,128

2. 利用統計 (平成6年度)

項目 \ 館別	合計	人文・社会科学系図書館	自然科学系図書館	人文科学系図書室	国際・教養系図書室	人間科学系図書室	医学部分館
年間開館総日数(日)	平均 246	255	252	254	221	225	271
入館者数(人)	755,089	141,376	175,873	73,693	218,719	37,289	108,139
館外貸出冊数合計(冊)	179,554	40,234	40,388	13,727	34,090	15,771	35,344
教職員	46,048	3,071	1,115	2,021	2,471	4,138	33,232
学生	133,373	37,163	39,273	11,603	31,589	11,633	2,112
学外者	133	0	0	103	30	0	0
文献複写合計(件)	76,015	3,375	54,994	935	506	628	15,577
学内	55,005	121	51,566	87	172	69	2,990
学外：大学図書館	12,633	3,212	2,663	830	320	537	5,071
学外：その他	8,377	42	765	18	14	22	7,516
ILL 現物貸借 貸出(冊)	435	234	19	52	93	36	1
借受(冊)	326	139	9	104	54	18	2
ILL 文献複写 受付(件)	13,266	3,375	2,694	743	504	489	5,461
依頼(件)	8,112	686	1,482	290	185	859	4,610
ILL 国外複写 依頼(件)	4	0	1	0	2	1	0

Attention!

3/1~
4/5

1996 全学図書館春季利用案内



神戸大学附属図書館(078)881-1212 (大代表)

館 室 名	開 館 時 間	休 館 日	特 別 貸 出 期 間	貸出冊数
人文・社会科学系図書館 ★内線3927 (直)803-0428	月～金 9:00～17:00	土 曜 日	2/16(金)～3/29(金) ★返却期限 本年度卒業生 3/25(月) 次年度在籍生 4/15(月)	通 常
自然科学系図書館 ★内線3932 (直)803-0430	月～金 9:00～17:00	土 曜 日 3/21(木)	2/9(金)～3/29(金) ★返却期限 本年度卒業生 3/25(月) 次年度在籍生 4/15(月)	通 常
人文科学系図書室 ★内線3941 (直)803-0432	空調工事のため休館 詳細については掲示をご覧ください		1/31(水)まで ★返却期限 本年度卒業生 3/25(月) 次年度在籍生 4/17(水)	学生15冊 院生25冊
国際・教養系図書室 ★内線3935 (直)803-0431	月～金 9:00～17:00	土 曜 日	2/9(金)～3/29(金) ★返却期限 本年度卒業生 3/25(月) 次年度在籍生 4/15(月)	10 冊
人間科学系図書室 ★内線3947 (直)803-0433	月～金 9:00～17:00	土 曜 日	学生 2/6(火)～3/29(金) 院生 2/6(火)～3/15(金) ★返却期限 本年度卒業生 3/25(月) 次年度在籍生 4/15(月)	通 常
医 学 部 分 館 代表 341-7451 ★内線3102	月～金 9:00～21:00 土 12:30～15:30	3/30(土)	特別貸出は実施しない	通 常
経 済 経 営 研 究 所 ★内線3619 (直)803-0386	月～金 9:00～17:00	土 曜 日	特別貸出は実施しない	通 常
医 療 技 術 短 大 ★内線4505 (直)796-4505	月～金 9:00～17:00	土 曜 日 3/5(火), 3/26(火)～ 4/1(月)	3/1(金)～3/4(月), 3/6(水)～3/22(金) ★返却期限 本年度卒業生 3/15(金) 次年度在籍生 4/12(金)	5 冊

【編集後記】 明けましておめでとうございます。大地震から始まり、オウム事件といろいろなことが続いた昨年。「平凡」って、とても幸せなことと実感できた年でした。世界の皆さん、全国の皆さん、その節は、ありがとうございました。神戸は頑張っています。(M)

神戸大学附属図書館報 Vol.5 No.4 (通巻第20号) 1996(平成8)年1月1日発行

編集・発行 神戸大学附属図書館 神戸市灘区六甲台町2-1(〒657) 電話(078)881-1212(大代表)